

Effect of income on length of stay in a hospital or long-term care facility among older adults with dementia in Japan

村田, 典子

<https://hdl.handle.net/2324/4110409>

出版情報 : Kyushu University, 2020, 博士 (医学), 課程博士

バージョン :

権利関係 : Public access to the fulltext file is restricted for unavoidable reason (2)

氏 名：村田 典子

論 文 名：Effect of income on length of stay in a hospital or long-term care facility among older adults with dementia in Japan

(日本の認知症高齢者の所得が入院期間もしくは施設入所期間に与える影響について)

区 分：甲

論 文 内 容 の 要 旨

認知症患者の入院期間が長く、低所得者は高所得者よりも入院及び施設入所する確率が高いことが、従来より指摘されてきた。しかしながら、実際に、所得格差によって医療や介護へのアクセスにどのような違いが生じているかは十分に明らかにされていない。そこで本研究では、新規で発症した認知症高齢者の所得格差が、入院率、入院日数及び施設入所率、入所日数にどの程度影響を与えているか、またそれによる医療費、介護費への影響がどの程度あるかを明らかにした。研究デザインは後ろ向きコホート研究とし、医療レセプト及び介護レセプトを用いた。医療レセプトデータにおいて、2012年4月から2013年3月の間に認知症と診断されておらず、2013年4月から2014年3月の間に新規に認知症と診断された75歳以上の者を対象として解析を行った。

本研究の対象者は全体で12,829人であり、そのうち、低所得者群が5,427人(42.3%)、一般所得者群が6,653人(51.9%)、高所得者群が749人(5.8%)であった。所得区分が医療施設への入院率に及ぼす影響について、低所得者群と高所得者群を比較し、有意差が認められた医療施設は、療養病床(OR:1.80)、精神病床(OR:2.41)だった。一方、すべての介護施設入所率については、低所得者群がすべての介護施設(OR:1.52)で最も入所率が高くなったものの、特別養護老人ホーム(OR:3.38)以外の施設は有意差を認めなかった。所得区分が入院日数、施設入所日数に与える影響については、DPC以外の一般病床、精神病床を除くすべての医療施設において、低所得者群ほど入院日数が長くなった。介護施設では、高所得者群と比較し、低所得者群の入院日数が長い施設は、特定入居者生活介護、地域密着型、介護療養、老人保健施設であった。また、低所得者群と比較し高所得者群の入院日数が長い施設は、特別養護老人ホームであった。入院医療費および介護費の分析では、入院医療費においては、高所得者群と比較し、低所得者群が有意に高く(OR:1.49, $p < 0.001$)、介護費においても低所得者群が有意に高く(OR:1.18, $p = 0.002$)、最も高額であった。以上の結果より、認知症高齢者は、低所得者において社会的入院が生じている可能性があり、低所得の認知症高齢者が在宅で生活できるような政策を考えていく必要がある。